

## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

よりよい人間関係を築くために必要な社会的スキルを育成する活動の教育課程への適切な位置付け

岩見沢市立東光中学校

岩見沢市立東小学校、岩見沢市立岩見沢小学校

### 効果的な取組とするためのポイント

推進校が連携し、各種調査やアセスメントから児童生徒の人間関係における課題を明確にし、ピア・サポートプログラムによる「人の話を聴く姿勢」の育成及び道徳教育の改善・充実を通して、児童生徒のよりよい人間関係を築く。

## 取組の実際

### 1 ピア・サポートプログラムによる「傾聴」の習慣化

児童生徒の人間関係構築に関わる諸問題は、小学校の段階から始まっていることが多いことから、人の話を聴くときは「目を見る」、「手を置く」、「しゃべらない」など、校区共通の指導を設定し、連携校の学級に掲示し、周知徹底を図っている。

今年度からは、加配教員が中心となり、小・中学校9年間の一貫したピア・サポートプログラムを行うことにより、子どもが支え合う親和的な風土をつくることをねらいとして推進している。中学校では、年度初めにピア・サポートのトレーナーである有資格者教員を招いた示範授業を全学級で行い、「傾聴」の授業から「話をしている人に体を向ける」、「話を最後まで聴く」、「同意したら頷きや相槌を打つ」を共通の重点目標として定めている。小学校においても、同トレーナーによる研修会を実施するとともに、中学校教員によるピア・サポートプログラムの乗り入れ授業を実施している。



各学級重点目標の掲示物が傾聴に変化

### 2 3校で道徳合同公開研修会の開催

北海道道徳教育推進校事業の指定校である東光中学校と岩見沢小学校に東小学校を加え、3校で道徳教育の改善・充実に取り組んでいる。人間関係を築く力の育成や新たないじめや不登校を生まない学校づくりを実現に向け、自分を見つめたり、仲間を認めたり、よりよい社会を築く力を伸ばしたりできる児童生徒の育成に取り組んでいる。

### 成果 (○) と課題 (●)

- 児童生徒に「傾聴」の習慣が身に付くとともに、人前で自分の考えを安心して話せるようになるなど、自己開示や合意形成のスキルが高まったことにより、道徳の授業において、多くの児童生徒が自分の考えを发表或し、多様な考えを聴き、取り入れたりすることができるようになった。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」の集計結果の分析によると、依然として子どもたちのコミュニケーション要素の「緊張」の項目数値が低いことから、子どもたちが互いに支え合える人間関係が構築できるよう、校区で9年間の系統立てた取組を工夫する必要がある。

## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

「ほっと」や生活アンケートの実施、分析及び校内研修や学年会議等での活用

石狩市立樽川中学校、石狩市立南線小学校

### 効果的な取組とするためのポイント

石狩市では、全ての小・中学校で「Q-U」を実施している。樽川中学校では、年間2回、全生徒を対象に実施し、分析結果から明らかとなった学年・学級集団及び生徒個人の課題を全職員で共有し、指導の工夫・改善に努めている。

## 取組の実際

### 1 「Q-U」による分析結果とその活用

「Q-U」を年2回（7月、12月）実施し、学級担任がそれぞれの分析結果をまとめ、教職員全体で共有している。学級集団の理解や児童生徒の個々の理解を深めるとともに、分析結果を小・中学校で共有している。

#### (1) 学級満足度尺度

学級集団への適応感を高め、諸々の活動に主体的に取り組む意欲の高まりにつなげている。生活不満足群中の要支援群に位置する生徒に対し、個別の支援策を検討するとともに、7月と12月の結果を比較し、個に応じた指導・支援の在り方を検討した。

#### (2) 学校生活意欲尺度（友人、学習、学級、進路、教師の5領域）

生徒個々が、5領域の中で、どの部分を学校生活の拠り所としているのか、どの部分に不安を抱えているのかを把握し、今後の指導・支援の在り方を検討した。

【「Q-U」の結果の比較】

1年	7月	12月	差	全国平均
侵害行為認知群	10.8%	13.8%	3.0%	15.0%
生活満足群	47.1%	46.1%	-1.0%	37.0%
生活不満足群	23.6%	26.3%	2.7%	31.0%
非承認群	18.5%	13.8%	-4.7%	17.0%
2年	7月	12月	差	全国平均
侵害行為認知群	8.9%	9.8%	0.9%	15.0%
生活満足群	58.6%	58.8%	0.2%	37.0%
生活不満足群	15.9%	17.0%	1.1%	31.0%
非承認群	16.6%	14.4%	-2.2%	17.0%
3年	7月	12月	差	全国平均
侵害行為認知群	3.3%	4.5%	1.2%	15.0%
生活満足群	70.0%	75.5%	5.5%	37.0%
生活不満足群	8.7%	7.3%	-1.4%	31.0%
非承認群	18.0%	12.7%	-5.3%	17.0%

### 2 分析結果の情報共有による指導・支援の充実

11月に「小中連携研究会」を実施し、不登校の傾向の見られる児童生徒や特別な支援を必要とする児童生徒の情報について、「Q-U」の分析結果などを基に交流した。小・中学校で情報を共有したことにより、連携した統一感のある取組を行うことができた。また、個別の生活意欲の尺度のグラフから、個々の児童生徒のよさや課題を共有して、指導・支援の充実につなげることができた。

#### 成果（○）と課題（●）

- 小・中学校で「Q-U」の分析結果を共有したことにより、学級集団と生徒個々を見取る尺度が確立され、共通の認識の下、指導・支援を行うことができた。
- 「Q-U」の結果分析・交流については、経年の変化を確認したり、要支援群に位置する生徒の変容を個別に捉えたりするなどして、児童生徒の指導・支援に活かしていく必要がある。

## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

### 「ほっと」等アンケート活用の取組

小樽市立朝里中学校  
小樽市立朝里小学校 小樽市立豊倉小学校

#### 効果的な取組とするためのポイント

中1ギャップ問題未然防止担当者を中心とした組織による子ども理解支援ツール「ほっと」の理解を深める研修を実施し、第1学年における「ほっと」と「ほっとプラス」の実施及び結果分析を踏まえた生徒の実態把握に努めている。

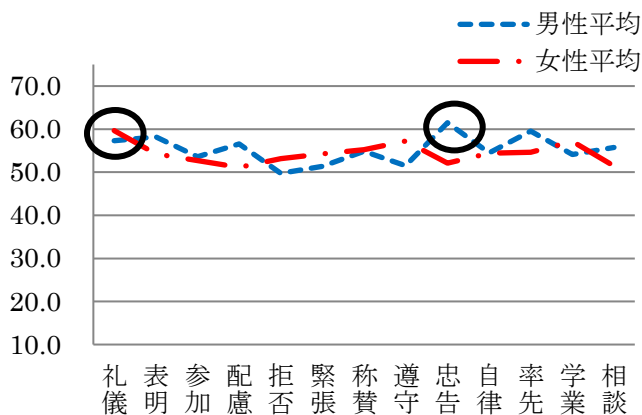
### 取組の実際

#### 1 子ども理解支援ツール「ほっと」の活用に向けた取組

朝里中学校では、平成28年度まで「アセス」を全学級で年間2回実施し、生徒理解に努めていた。

平成29年度からは、コミュニケーション能力や日常生活等への満足度、精神的な安定度など児童生徒をより深く理解することを目的に、「ほっと」を活用することとした。「ほっと」の活用にあたり、中1ギャップ担当教員と教育相談係が中心となり研修を進め、全職員で理解を深めた。

第1学年では、「礼儀、表明」、「忠告、自律」で高い数値を示しており、昨年度の学校経営の重点である「居心地のよい集団づくりと組織的な積極的な生徒指導の展開」の成果であると考えられる。



【「ほっと」で明らかになった第1学年の13要素偏差値】

#### 2 複数回実施によるデータの分析及び活用

PDC Aサイクルの活用にあたり、各種アンケートの実施は重要である。「ほっと」の活用と合わせ、本校研究部では、毎学期生徒アンケートを実施し、学校経営の重点の達成に向け、分掌での検討に生かし、生徒が安心して過ごすことができる学校づくりに取り組んでいる。「朝里中の先生はだめなことはだめと厳しく指導し、一人一人の生徒を大切にしてくれる…96.9%」「朝里中の先生は生徒の声に耳を傾け、困ったことや悩みなどにしっかりと対応してくれる…97.0%」と肯定的にとらえる生徒が多いことが分かり、「ほっと」の活用と合わせて、生徒理解に非常に有効であった。

#### 成果 (○) と課題 (●)

- 「ほっと」「ほっとプラス」の実施による検証を経て、本校で展開している積極的な生徒指導の取組の成果について数値として実感することができた。また、他のアンケートを組み合わせ、多面的に生徒の意識を把握することで、きめ細かな生徒指導を行うことができた。
- 義務教育9年間での児童・生徒理解を一層確かなものとするため、「ほっと」の活用を小・中学校で同じ歩調で進める必要がある。

## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

「ほっと」や生活アンケートの実施、分析及び校内研修や学年会議等での活用

共和町立共和中学校・共和町立東陽小学校  
共和町立北辰小学校・共和町立西陵小学校

### 効果的な取組とするためのポイント

子ども理解支援ツール「ほっと」の活用による各学年・学級での客観的なデータを生徒指導担当者部会において共有し、進級・進学時の引継ぎ資料として活用している。さらに、「ほっと」の分析結果についての研修会を開催し、生徒理解を充実させるとともに、生徒指導の改善に努めている。

## 取組の実際

### 1 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施と分析

#### (1) 「ほっと」の実施

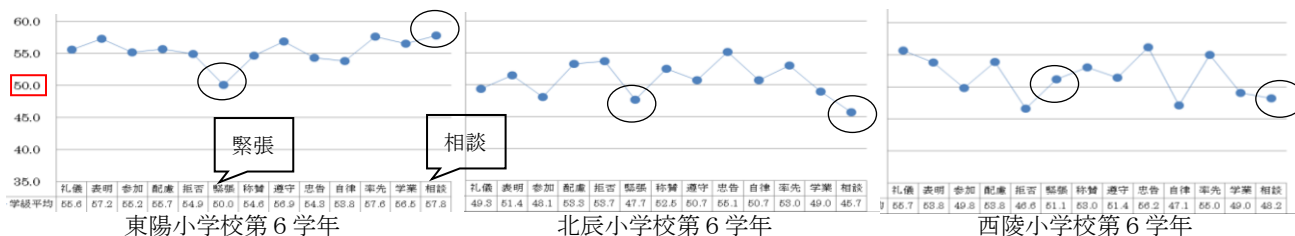
夏季休業後と冬季休業後の2回実施した。

#### (2) 結果の分析及び共有

生徒指導担当者部会において講師を招き、分析結果についての解説・意見交換を実施した。また、小学校については、各校で違った傾向が見られ、課題のあるスキルが違う集団が、1つの中学校に進学するという現状を確認するとともに、偏差値50を下回っているスキルを各校の課題として、当該スキルを向上させるための教育活動を取り入れた。

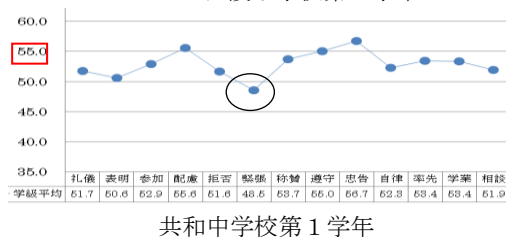
### 2 分析結果を生かした取組

#### (1) 「ほっと」の13要素偏差値（※結果グラフについては、小学校6学年・中学校1学年を抜粋）



分析結果については、町の特徴として、緊張の要素が低い学校が多く、相談の要素における学校間の差が大きい傾向が見られた。

また、緊張のスキルが低いことから、授業において間違いが認められる雰囲気をつくったり、学校行事等において自信をもたせる場面を多く設定したりして、自尊感情が高まる対策を検討した。



#### (2) 「ほっと」実施学年

小学校第5・6学年、中学校第1・2学年を対象として実施した。

### 成果 (○) と課題 (●)

- 「ほっと」の分析結果の解説では、客観的なデータの正確性・有用性について多くの教員が納得しており、研修での意見交換は非常に有意義なものとなった。また、客観的なデータは、児童生徒の思いを受け止め、共感するなど、個々の実態に応じた生徒指導に生かしている。
- 「ほっと」については、生徒指導の成果を客観的に推移として把握できることから、継続的に実施していくことが必要である。



## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

「ほっと」や生活アンケートの実施、分析及び校内研修や学年会議等での活用

室蘭市立桜蘭中学校、室蘭市立知利別小学校  
室蘭市立旭ヶ丘小学校、室蘭市立八丁平小学校

### 効果的な取組とするためのポイント

子ども理解支援ツール「ほっと」を活用して、各学年の傾向や取組の交流を行い、学年・学級集団及び児童生徒個人の課題を全教員で共有し、支援の在り方を検討した。

各学校の「ほっと」の分析結果に基づき、実践の成果を交流し、今後の指導の充実に役立てた。

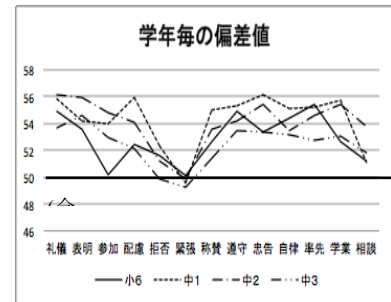
## 取組の実際

### 1 「ほっと」の分析結果

中学校区内の小学校第6学年児童と、中学校第1、2学年生徒の「ほっと」の結果から、全体の傾向を把握し、支援の在り方を検討した。

成果として、小学校第6学年及び中学校第1学年において、全体的に全道平均を上回っている。特に小学校第6学年においては、「礼儀」、「尊守」、「忠告」、「率先」等の項目が高く、中学校第1学年においては、「参加」、「学業」等の傾向が高い。

課題としては、「緊張」の項目であり、他者からの評価に敏感になることで、緊張や不安によって話すことができず、相談や自己開示がしづらい傾向がある。



【「ほっと」の分析結果】

#### -----小6-----

コミュニケーションスキルが全体的に高い。特に、集団維持関連項目に優れている。

#### -----中1-----

「緊張」に課題があり、学校生活に不安を持っている傾向がある。

#### -----中2-----

コミュニケーションスキルが全体的に低い。「拒否」「相談」の項目が低く。断る勇気、困ったときに相談することができない傾向がある。

### 2 「ほっと」の分析結果の交流

各小学校の「ほっと」の分析結果を交流し、支援の在り方等について共通理解を図った。

#### (1) 旭ヶ丘小学校の「ほっと」の分析の特徴と具体的な取組

「礼儀」、「配慮」、「称賛」の項目が高い。礼儀正しくしようとする意識をもっており、相手への思いやりをもって接しようとしている児童が多い。また、相手のよさを認め、互いにほめ合おうとする意識をもっている児童が多い。

・小学校第6学年によるお世話活動 ・行事におけるメッセージ交換 ・学年間の相互交流

#### (2) 知利別小学校の「ほっと」の分析の特徴と具体的な取組

「尊守」、「忠告」、「率先」の項目が高い。全体的にコミュニケーションスキルが身に付き、素直な児童が多く、意欲をもって物事に取り組むことができる。規則を守ろうとする意識も高く、失敗することがあってもそれを認め、正すことができる。

・全校児童の交流(全校遊び) ・委員会活動(挨拶運動) ・高学年と低学年の関わり(清掃活動)

#### (3) 八丁平小学校の「ほっと」の分析の特徴と取組

「礼儀」、「拒否」、「率先」の項目が高い。元気のよい挨拶や、日常の言葉遣いなどから、礼儀正しい児童の姿が見られる。友人関係も良好で活気があり、自分の価値判断で断ることができ、互いに尊重し認め合うことのできる集団である。

・縦割り活動(自治) ・挨拶は、立ち止まって、礼をする。 ・生活づくりカレンダー

### 成果(○)と課題(●)

○ 「ほっと」の分析を交流することにより、客観的なデータに基づき、児童生徒のよさや各学校の取組の成果を把握し、学校間で取組について交流することができた。

● 「ほっと」の研修をさらに深めるとともに、分析データによる実践と成果を全教職員(各学校)が共有し、集団の変容を継続的に把握する必要がある。

## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

ボランティア活動による児童生徒の交流など、小・中学校が連携した取組の実施  
～「わくわく学習タイム」における中学生ボランティア先生の活用～  
伊達市立東小学校

### 効果的な取組とするためのポイント

小学生は、中学校生活に対し、憧れや期待とともに漠然とした不安をもつことが予想される。不安の多くは中学校入学後に解消されていることから、中学生と身近に接する機会を設定することが、円滑な小中接続の一助となると考え、本取組を実施した。長期休業中の学習サポート事業を活用することで、中学生は自主参加のボランティア活動となり、より自主的・主体的な活動になると考えた。

### 取組の実際

#### 1 実施の日時

《夏季休業》

期日：平成29年7月27日（木）9：30～11：00

平成29年7月28日（金）9：30～11：00

《冬季休業》

期日：平成29年12月25日（月）9：30～11：00

#### 2 活動内容

長期休業中の「わくわく学習タイム」において、自主学習に取り組んでいる小学生の解答の丸付けをしたり、問題の解き方を教えたりする。

#### 3 活動の様子

《夏季休業》

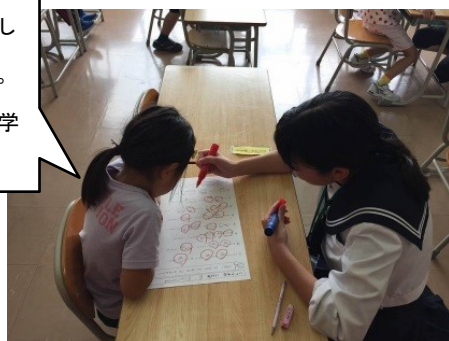
- ・中学校第1学年4名、第2学年2名、第3学年2名、合計8名が参加
- ・小学校第1学年、第2学年を対象に、学習サポートを実施

《冬季休業》

- ・中学校第1学年4名、第2学年6名、合計10名の参加予定だったが、悪天候のため25日のみの実施となり、中学生の参加は7名であった。
- ・中学生ボランティアは、夏季休業の取組を経て、小学生への対応に慣れてきたことから、第1～4学年児童の学習サポートを行った。

中学生が解答をチェックし、丸付けをしてくれたので、私は多くの児童に個別指導をすることができ、助かりました。小学生も中学生と交流することができて、楽しそうでした。（小学校教諭）

中学生のお姉さんが勉強を優しく教えてくれてうれしかったよ。また来てほしいな。（小学校第2学年女子）



### 成果（○）と課題（●）

- 小学生と中学生が身近に接することにより、中学生に対して、好ましい印象をもつきっかけとすることができた。
- 小学生や小学校教員から感謝されることにより、中学生の自己有用感が高まり、意欲的に活動する姿が見られた。
- 中学生の自主的な参加を基本としており、多くの参加者を確保するために、呼びかけ等を工夫する必要がある。

## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

学校行事、児童会・生徒会活動、クラブ活動や部活動の合同実施による児童生徒の交流など、小・中学校が連携した取組の実施

長万部町立長万部中学校

長万部町立長万部小学校、長万部町立静狩小学校

### 効果的な取組とするためのポイント

小学校の児童が様々な活動・取組を通じて、中学校の生徒との交流を重ねることで「中学校・中学生」に対する理解が深まっていく。さらに、このような取組を通じて、児童が中学校生活に対する見通しをもつことにつながる。

## 取組の実例

### 1 「いじめの問題について考える会」の実施

中1ギャップ未然防止連絡協議会で児童生徒の交流に係る取組の一つとして、児童会・生徒会活動の交流を計画した。

今年度は小中高の児童会・生徒会が中心となって「いじめの問題について考える会」を開催し、児童生徒で「長万部町いじめ撲滅宣言」の宣言を行った。今後も、継続した交流・取組を目指し、事務局と児童会・生徒会担当で協議を進めていく。



【いじめの問題について考える会の実施】

### 2 小中歌声集会の実施

児童生徒の交流として「小中歌声集会」を実施した。この取組は数年前から長万部小学校と長万部中学校の取組として実施していたが、今年度からは児童生徒の「小小連携」「小中連携」を目的に静狩小学校の児童も参加した歌声集会となった。

### 3 小中高吹奏楽「ジョイントコンサート」の実施

部活動に参加している児童生徒の交流として小中高の3校の吹奏楽部による「ジョイントコンサート」を実施している。小から中へ、中から高への円滑な接続を図るための貴重な取組となっている。



【「ジョイントコンサート」】

### 成果（○）と課題（●）

- 児童生徒の交流を進めたことにより、小中の交流だけでなく小小の交流についても充実が図られ、それぞれの取組を担当する教職員同士の交流にもつなげることができた。
- 「中1ギャップ未然防止連絡協議会」が中心となり、継続的かつ安定した効果的な活動・取組となるよう、組織の整備を図る必要がある。



## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

「ほっと」や生活アンケートの実施、分析及び校内研修や学年会議等での活用

東川町立東川中学校、東川町立東川小学校、東川町立東川第一小学校、東川町立東川第二小学校、東川町立東川第三小学校

### 効果的な取組とするためのポイント

中1ギャップ解消に向けた課題を明確にするために、全ての小・中学校で年2回、子ども理解支援ツール「ほっと」を実施している。また、各学校で分析結果を共有し、児童生徒の実態把握をすることで、きめ細かな指導の充実を図っている。

## 取組の実際

### 1 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施と分析

- ・7月に各校で実施した1回目の分析結果を、校種別・規模別にまとめ、全町で共有した。
- ・小学校及び中学校ともに、多くの項目で平均を上回っている。
- ・一方、小学校の小規模校では、「対人関係基礎項目」における「参加」の値と、「集団維持関連項目」における「緊張」の値が平均より低くなっている。
- ・東川小学校においては、全ての項目で平均を上回っている。

13要素	東川小 6年平均	小規模校 平均	東川中① 1年○組学級平均	東川中① 1年○組学級平均	東川中① 1年○組学級平均	東川中① 1年平均
礼儀	53.2	59.5	55.3	55.6	61.3	57.4
表明	55.6	53.1	54.2	55.3	60.7	56.7
参加	51.8	49.7	58.1	54.5	60.6	57.7
配慮	53.0	53.8	56.0	56.8	59.8	57.5
拒否	50.7	55.8	53.9	50.5	52.1	52.2
緊張	50.7	49.2	48.6	50.4	46.3	48.4
称賛	53.5	54.9	54.3	55.1	57.5	55.6
遵守	51.7	54.3	56.4	55.0	58.0	56.5
忠告	53.3	61.5	56.3	55.8	63.9	58.7
自律	54.4	53.6	53.6	52.7	55.4	53.9
率先	52.8	53.3	52.4	53.3	62.2	56.0
学業	53.4	53.8	56.9	54.9	60.3	57.4
相談	50.9	55.3	52.7	51.1	55.0	52.9

【「ほっと」7月実施の分析結果】

- ・中学校では、「集団維持関連項目」において「緊張」の値が低くなっており、「相談」の値が他の項目に比べて低くなっていることなど、結果分析により、児童生徒の実態が明らかとなった。

### 2 分析結果を生かした重点的な指導

- ・町全体として、「参加」と「緊張」の値が低いことが課題であり、環境への変化を取り除くための教育相談や自己有用感を高める教育活動の工夫、変化に対応できるような指導を推進するために、互いに認め合える場の設定や、気軽に相談できる体制づくりを行う必要がある。

### 成果(○)と課題(●)

- 「ほっと」を活用したことで、多角的・多面的な視点から生徒理解を深めることができた。また、分析結果を全町で共有するとともに、児童生徒に身に付けさせたい力を明確にしたことで、教職員の共通理解のもと解決策を検討し取組を推進することができた。
- 「ほっと」を有効に活用するために、検査結果の分析や検査結果を踏まえた対応策について定期的に検証を行う必要がある。



## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

「ほっと」や生活アンケートの実施、分析及び校内研修や学年会議等での活用

天塩町立天塩中学校  
天塩町立天塩小学校、天塩町立啓徳小学校

### 効果的な取組とするためのポイント

「ほっと」の分析に加え、本地域の全児童生徒を対象に「道徳性に関するアンケート」を実施した。これらの分析結果を資料として各校の校内研修や合同研修会で共有し、人間関係づくりの能力の育成につながる指導の改善に努めている。

## 取組の実際

### 児童生徒の道徳性に関するアンケートの実施と分析

児童・生徒の道徳性に関する分析・考察(天塩町内小学校6学年)

	4	3	2	1
<b>A 自分自身に関すること</b>				
1 自分で考えて行動するとともに、行動して出た結果に責任をもつようにしている。	28.6%	66.7%	4.8%	0.0%
2 うそをついたりごまかしたりしないで、正直に生活している。	38.1%	42.9%	14.3%	4.8%
3 健康や安全に気をつけ、規則正しく生活している。	38.1%	47.6%	9.5%	4.8%
4 自分の息いところを知り、その良さを伸ばそうと努力している。	35.0%	50.0%	10.0%	5.0%
5 目標の達成に向けて希望と勇気をもち、苦しいことやつらいことがあっても乗り越えようと努力している。	61.9%	33.3%	4.8%	0.0%
6 身の回りのことに関心をもち、物事を探究する気持ちをもって生活している。	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%
<b>B 人との関わりに関すること</b>				
7 思いやり的心をもつて、他の人と接するよう心がけている。	66.7%	23.8%	9.5%	0.0%
8 家族や友だち、先生など、周囲の人たちに感謝の気持ちをもって生活している。	66.7%	28.6%	4.8%	0.0%
9 相手との関係や時間・場所を考えて、礼儀正しく接するよう心がけている。	61.9%	33.3%	0.0%	4.8%
10 友だちとの信頼関係を大切に、お互いに励まし合いながら生活している。	71.4%	19.0%	4.8%	4.8%
11 自分とは違う考えの友だちがいたとしても、広い心で受け入れようとしている。	61.9%	23.8%	14.3%	0.0%
<b>C 集団や社会との関わりに関すること</b>				
12 学校のきまりを守ったり、みんなで決めたルールを大切にしたりして生活している。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
13 誰に対しても差別をせず、同じ態度や言葉づかいで接している。	38.1%	38.1%	14.3%	9.5%
14 自分だけでなく、他の人や公共のためになることを率先して行っている。	47.6%	42.9%	9.5%	0.0%
15 家族を大切に、家族の一員としての自覚をもって家庭生活を送っている。	66.7%	23.8%	9.5%	0.0%
16 先生や友だちとの関係を大切に、協力してより良い学校にしようとしている。	66.7%	23.8%	9.5%	0.0%
17 日本や郷土の伝統や文化を大切にしようとしている。	35.0%	55.0%	10.0%	0.0%
18 世界のことを深く知り、日本人としての生き方を考えようとしている。	33.3%	42.9%	19.0%	4.8%
<b>D 生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b>				
19 自分や他の人の命が大事なものであることを理解し、いつも大切にしている。	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%
20 自然に親しむとともに、自然環境を大切にしようとしている。	66.7%	28.6%	4.8%	0.0%
21 美しい景色や芸術に感動したり、人の心の優しさや温かさに感動したりしている。	28.6%	52.4%	14.3%	4.8%
22 生きる喜びを感じながら、前向きに生き生きと生活している。	52.4%	33.3%	14.3%	0.0%
<b>E その他</b>				
23 道徳の時間の授業は好きだ。	38.1%	47.6%	4.8%	9.5%
24 道徳の授業では、自分の考えを伝えたりほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。	28.6%	61.9%	4.8%	4.8%

小学校第6学年では、「自分自身に関すること」と「集団や社会との関わりに関すること」の内容で評価の低い項目が多く、課題があると分析した。

児童・生徒の道徳性に関する分析・考察(全学年)

	4	3	2	1
<b>A 自分自身に関すること</b>				
1 自分で考えて判断し、正直に行動するとともに、行動して出た結果に責任をもつようにしている。	36.8%	52.6%	9.2%	1.3%
2 健康や安全に気をつけ、規則正しく生活している。	53.2%	40.3%	6.5%	0.0%
3 自分の息いところを知り、その良さを伸ばそうと努力している。	29.9%	50.6%	16.9%	2.6%
4 目標の達成に向けて希望と勇気をもち、苦しいことやつらいことがあっても乗り越えようと努力している。	49.4%	39.0%	7.8%	3.9%
5 身の回りのことに関心をもち、物事を探究する気持ちをもって生活している。	28.6%	57.1%	11.7%	2.6%
<b>B 人との関わりに関すること</b>				
6 思いやり的心をもつて他の人と接するよう心がけ、家族や友だち、先生など、周囲の人たちに感謝の気持ちをもって生活している。	48.1%	49.4%	1.3%	1.3%
7 相手との関係や時間・場所を考えて、礼儀正しく接するよう心がけている。	66.2%	33.8%	0.0%	0.0%
8 友だちとの信頼関係を大切に、お互いに励まし合いながら生活している。	51.9%	44.2%	3.9%	0.0%
9 自分とは違う考えの友だちがいたとしても、広い心で受け入れようとしている。	37.7%	51.9%	7.8%	2.6%
<b>C 集団や社会との関わりに関すること</b>				
10 自分とは違う考えの友だちがいたとしても、広い心で受け入れようとしている。	51.9%	46.8%	1.3%	0.0%
11 誰に対しても差別をせず、同じ態度や言葉づかいで接している。	29.9%	53.2%	15.6%	1.3%
12 社会の出来事に積極的に参加し、社会の一員としての自覚をもって生活している。	28.6%	55.8%	15.6%	0.0%
13 自分だけでなく、他の人や公共のためになることを率先して行っている。	31.2%	62.3%	6.5%	0.0%
14 自分だけでなく、他の人や公共のためになることを率先して行っている。	55.3%	38.2%	6.6%	0.0%
15 先生や友だちとの関係を大切に、協力してより良い学校にしようとしている。	54.5%	37.7%	6.5%	1.3%
16 郷土の伝統や文化を大切にしようとしている。	37.7%	45.5%	14.3%	2.6%
17 日本の伝統に興味をもち、受け継ぎたいようしようとしている。	26.0%	46.8%	26.0%	1.3%
18 世界のことを深く知り、日本人としての生き方を考えようとしている。	28.6%	45.5%	20.8%	5.2%
<b>D 生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b>				
19 自分や他の人の命が大事なものであることを理解し、いつも大切にしている。	71.4%	26.0%	2.6%	0.0%
20 自然に親しむとともに、自然環境を大切にしようとしている。	59.7%	36.4%	3.9%	0.0%
21 美しい景色や芸術に感動したり、人の心の優しさや温かさに感動したりしている。	46.8%	42.9%	9.1%	1.3%
22 生きる喜びを感じながら、前向きに生き生きと生活している。	40.3%	41.6%	14.3%	3.9%
<b>E その他</b>				
23 道徳の時間の授業は好きだ。	23.7%	48.7%	22.4%	5.3%
24 道徳の授業では、自分の考えを伝えたりほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。	24.7%	50.6%	20.8%	3.9%

中学生全体でも同様に、「自分自身に関すること」と「集団や社会との関わりに関すること」の内容で評価の低い項目が多く、課題があると分析した。

### 成果(○)と課題(●)

- 「道徳性に関するアンケート」を町内3校で実施・分析し、課題を共有することができた。
- 学校行事や生徒会活動等、児童生徒が交流する活動等を通して、人間関係づくりの能力を高める取組を計画的に実施する必要がある。

## 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続の工夫改善

よりよい人間関係を築くために必要な社会的スキルを育成する活動の教育課程への適切な位置付け

標茶町立標茶中学校、標茶町立標茶小学校  
標茶町立磯分内小学校、標茶町立沼幌小学校

### 効果的な取組とするためのポイント

小学校間の連携による児童交流会を実施することで、中学校入学前によりよい人間関係づくりの土台をつくる。また、総合的な学習の時間の内容について小中連携を図ることで、キャリア教育の視点で中学校卒業時まで育てたい資質・能力を明らかにして共有する。

## 取組の実際

### 1 中学校体験入学前の小学校3校交流会

標茶中学校区の小学校の規模が異なることから、小規模校の児童が大きな集団に慣れることを目的とし、今年度から3校の小学校が合同で、中学校体験入学の前に交流会を実施した。その結果、早期に人間関係を築くとともに、体験入学をスムーズに迎えることにつながり、一定の成果が見られた。



【ゲームでの交流の様子】



【給食での交流の様子】



【給食での交流の様子】

### 2 総合的な学習の時間の学習内容の交流

加配教員が窓口となり、各校での総合的な学習の時間の学習内容を集約した。中学校では、各小学校の取組による独自性を踏まえて、中学校で育てたい資質・能力を身に付けることができるように学習内容を編成するようになってきた。その結果、系統性を意識した教育課程の編成に結び付けられるようになってきている。

### 3 旅行・集団宿泊的行事の内容の交流

加配教員が小学校での宿泊研修、修学旅行の行程を集約し、小学校での体験と重複しないよう配慮した。

#### 成果 (○) と課題 (●)

- 3校交流会のような小学校間の連携の取組は、中学校入学前の児童がよりよい人間関係づくりができる場として有効であった。
- 総合的な学習の時間等での小学校の活動を中学校で把握したことで、中学校での教育課程を考える一助になった。
- 中学校の教育課程を編成する上で、小学校の総合的な学習の時間の内容を把握することは有効であったものの、教育課程に反映させるためには、今後も小中連携の協議が必要である。